

《聖フランシスコ・ザビエル像》の図像展開と
17世紀初頭におけるその作品目録

木村三郎

《聖フランシスコ・ザビエル像》の図像 展開と17世紀初頭におけるその作品目録

木村 三郎

要 約

この論考では、17世紀西洋と日本における、聖フランシスコ・ザビエルの図像の展開をあとづけることを目的としている。具体的には二つの論点を提示する。先ず、この聖人に関する図像学研究史を概観し、他方では、1600年前後に描かれた、西洋とわが国双方における作品を整理し、カタログとして示す。

I. 聖フランシスコ・ザビエルに関する 図像学研究史

美術史研究の範疇には必ずしも入らないこの聖人についての一般的研究としては、先ずなによりも、シュールハメル師が行った膨大な労作が知られている⁽¹⁾。

一方で、美術作品における図像学研究に限って考えてみると、19世紀後半に、アミーが、イエズス会の図像に関する作品目録をすでに作成している⁽²⁾、その中にあるザビエルを描いた作品リストが、現在でも最も基本的な情報を与えてくれている。シュールハメル師自身も、1917-22年の間には、美術史関係の論考を数点発表している⁽³⁾。

今世紀後半になされた学術性の高い研究にしばらくも、先ず挙げなければならない研究は、やはり1954年に刊行されたシュールハメル師の研究である⁽⁴⁾。その後になって、ようやく西洋キリスト教図像学の一般的な基礎文献が登場してくる。レオが、1958年に刊行した「キリスト教図像学」のなかの関連記事がそれであり⁽⁵⁾、その後1964年には、ラッジの研究が続く⁽⁶⁾。1974年には、クルスが、「キリスト教図像学事典」LCIのなかで網羅的

な文献の収集を行っている⁽⁷⁾。比較的近年のものでは、1983年に、クープリーの研究も確認できる⁽⁸⁾。

一方で、個別研究に関しては、さらに数点の基礎研究を指摘できる⁽⁹⁾。ヨーロッパにおいては、ザビエルの肖像だけでなくその生涯のある事実を描いた作例について、すでにいくつかの研究を確認できるからである。たとえば、フランドルの画家ルーベンスは、現在では破壊されてしまっているこの聖人の像(図1)を、1616年以前に描いたことが知られている。研究者シーンは、近年この作品について論文を発表している⁽¹⁰⁾。この画家は、1617-19年頃に、この聖人の奇跡についての、大構図の作品(ウィーン、美術史美術館)を描き出しているが(図1)、スマイスは、この作品についての詳細な研究を刊行してきていて、西欧におけるこの聖人の図像学研究のスタンダードとなっている⁽¹¹⁾。

フランスでは、作例として、ロレーヌ地方の画家ル・クレールが、恐らく1622年より若干後に描いたとされる《インド人に布教する聖フランシスコ・ザビエル》(図2)。そして、ブッサンが、1641年に描いた《聖フランシスコ・ザビエルの奇跡(日本の鹿児島で死んだ娘を蘇らす聖フランシスコ・

ザビエル)を指摘できる。これらの作品にはそれぞれ、その文学上の典拠、並びにに視覚上の着想源を新しく指摘した拙論がある⁽¹²⁾。

II. 1600年前後に西洋と日本で描かれた聖フランシスコ・ザビエル像について

聖フランシスコ・ザビエルを描く作品には、上記の研究が示しているように、西洋の16世紀末以降においては多くの事例を指摘することができる。一般民衆の手にも届く大衆性の高い事例も含めるならば、無数という言い回しを使うことも可能であろう。その全てをこの論考の紙面であとづけることは不可能である。従って、この研究の目的とするところは、17世紀初頭という限られた時代のイメージの展開を調査することである。

シュールハメル師によれば、ゴアでは、今日では失われたザビエルの肖像が知られていて⁽¹³⁾、ゴディンホ・デ・エレイデの素描がこの肖像に基づいたものとされている(図5)⁽¹⁴⁾。

A. 燃える熱情を示す聖フランシスコ・ザビエルの肖像

カレヨンが執筆した「イエズス会文献目録」⁽¹⁵⁾に従うと、聖フランシスコ・ザビエルの伝記は、16世紀末から17世紀にかけて、20点程刊行された事実が知られている。その中で、16世紀末から17世紀初頭にかけて刊行された、最も著名なトルセリーノ著の伝記には版画が挿入されていて、伝記自体の刊行年から逆に、その版画の制作年を推定することができる。

たとえば、図6に示した秀逸な作例はテオドル・ハレによるもので、1596年にローマで刊行されたトルセリーノの伝記の中の挿し絵となっている。従って、版画自体の制作年は、少なくともこの年以前ということが想定され得るであろう⁽¹⁶⁾。

この版画上部には、SAT EST DOMINE SAT ESTの記銘が確認できる。一方で、両手を襟元に置き、さながら衣服の胸の部分をはだけるかのような仕草を指摘できる。前作と比べると逆向きの描写であるが、同じ類型による作例と考えることができる。

やはり同じ類型のものとして図7の作例を挙げ

ることができる⁽¹⁷⁾。フランドルの版画家アントワーヌ・ヴィーリクスの作品である。この場合も、ザビエルは両手でスターンを持ち上げている⁽¹⁸⁾。図8に示した版画は、デ・ルセナによる伝記のなかに確認できる。

1606年にセルグリエルミが伊訳刊行したトルセリーノの伝記の中の挿し絵(図9)では、二人のケルビム、薔薇、左手の杖を先ず確認できる。この作品は、シュールハメル師が、1594年に発表した論文の中に引用した、17世紀のイタリア画家サツォフェラート作とされる作品(図10)の原型をなすものである⁽¹⁹⁾。

1608年には、版画家ボニファッツィオが、全身像のザビエルを描いた作品を残している(図11)(19 bis)。先にも若干触れたように、この作品に関しては、筆者はすでに、画家ル・クレールがその作品<インドでの布教>を描くに際し、視覚上の着想源として参考にし⁽²⁰⁾、また、プッサンも、ルーヴル美術館所蔵の<聖フランシスコ・ザビエルの奇跡>の中にも使っていた事実を指摘している⁽²¹⁾。ここでは、改めてその人物像の表現方法を確認してみたいと思う。頭部には後光があり、着衣としては、身体と腕の大きさに見合った長い衣装であるスターンを指摘できる。その上に、アルバを着用していて、これは、17世紀末刊行のフェルティエールが執筆した仏々辞典でも、「白い布で織った足元近くまでである」と規定されている⁽²²⁾。さらに子細に眺めると、このアルバの上に、細長い帯状の頸垂帯で、祭服の一つであるストラが確認できる。これは、「聖職者が、教会での高い地位を示すために、着衣のスルプリの上の付けた装飾であり、司祭はアルバの上に着用した。幅の広い帯の形をし、首から足元までの長さがあり、三つの十字架をつけている」⁽²³⁾とされたものである。

1611年に刊行されたトルセリーノの伝記に挿入された版画には、若干異なった描法が確認できる。また、その版画には、以下に示した、エモン・オジェが書いた詩が添付されている(23bis)。

“Ce Portrait de Xavier monstra son Ame ardente

A ranger sous la Croix tous ces Mondes nouveaux,

Que
Sou
II
pru
De
Trc
San
cou
sa
acc
Not

Proj
Aue
De l

エ
エズ
の生
年に
快活
ヨラ
ルに
ること
認め
ロテ
聴罪
この
像は、
の新世
うとす
を指指
もとの
一方
である
いた作

Que l'vne, & l'autre Mer arrose de ses eaux
 Sous le Pole Antarctique & la Zone bruslante.
 Il charma ces cœurs fiers d'vne façon
 prudente.
 De souspirs, & de pleurs nourrissant ses
 Troupeaux,
 Sans peur, par fai, par feux, par gibets, &
 couteaux.
 sa Doctrine à ses Mœurs de tous Pointcs
 accordante.
 Noble, riche, scauant, Nauarrois s'addona
 A Ignace à Paris & tost se façonna.
 Si bien qu'il en tira parfaicte nourriture.
 Prophete, & Vierge il fut:
 resuscita maint Mort:

Aueugles, Sourds, Muets il guerit:
 puis au Port

De la Chine mourut: exempt de pourriture

P. EMOND GER

エモン・オジェは、フランスにおける最初のイエズス会士の一人で、著名な説教師であった。その生涯を簡単に述べると以下の通りである。1530年にアルマンに生まれ、1591年にコームで死亡。快活なその性格は、まもなく、イグナチウス・ロヨラの関心を引くところとなり、ヘロニモ・ナダルに修辭学と哲学を教育してくれるように依頼することとなった。ロヨラから、修煉院への入会を認められ、フランス南部に派遣されたあとは、プロテスタントの改宗に尽力した。アンリIII世から聴罪司祭に任用された⁽²⁴⁾。

この詩の内容を簡単にいえば、「このザビエル肖像は、南極と熱帯の間にあつて大洋に現れる全ての新世界に、十字架のもと新しい秩序を与えようとする彼の熱烈な魂を表している」という事実を指摘している。要するに、ここには、「十字架のもと熱烈な魂」が表現されているのである。

一方で、この時代のフランドルの代表的な画家であるヴァン・ダイクにも、やはりザビエルを描いた作品がある(図12)⁽²⁵⁾。対画が、イグナチウ

ス・ロヨラを描いた作品である⁽²⁶⁾。この作品では、ハレ以降の図像伝統に沿った表現が認められるといえる。

一方で、この時代の日本では、1930年に高槻市で発見され、現在、京都大学に所蔵されている「ロザリオのマリア(マリアー五玄義図)」の中にザビエル像(図13)が描かれていることが知られている⁽²⁷⁾。この作品のなかで興味深い事実は、前景に描かれているロヨラの右手にザビエルがいて、その両手の仕草が、燃える熱情を示す形を取っていることである⁽²⁸⁾。この分析からは、日本人画家が、ゴンディンホ・デ・エレイデ以来の伝統の中にいたことが判明してくるのである。

B. 祈禱する聖フランシスコ・ザビエルの肖像

ここで、この時代やはり多く制作されていた第2の肖像の類型の分析に移りたいと思う。ヒエロニムス・ヴィーリクス作のザビエル像(図14)は楕円形の中に描かれ、Aのグループの作品群と比べ胸の前にある両手の形にはっきりとした違いを認めることができる。ここでは、両手を交差した形をとり、これは、イエズス会の伝統では、祈りを表したものである(28bis)。

このヴィーリクスの作品は、若干斜め上方を向いた胸像である。19世紀末に刊行されたヴィーリクス研究の基本文献であるアルヴァンによると、この作品の上下左右の小さな楕円形のメダイオンには、この聖人に関する奇跡が描き込まれている。頭部には後光はない⁽²⁹⁾。一方で、後光の入ったザビエル像も存在する(図15)⁽³⁰⁾。

さらにもう一点ヴィーリクスの作品で、左右逆の位置で描かれた胸像がある(図16)。胸の上で両手を交差させ、口からは、先に引用したラテン語記銘が出ている⁽³¹⁾。

図17に示した作品は、全身像の祈る姿でやはり両手を交差させているが、右手には、殉教のアトリビュートである棕櫚を持つ⁽³²⁾。

現在は破壊されてしまった作品であるが、ルーベンスが、図18に示した作例を描いていたことも知られている⁽³³⁾。この作品の対画が、ウォリック城にあるロヨラ像である⁽³⁴⁾。18世紀の研究者マンサールによれば、この聖人の着衣であるアルバの

衣紋はまことに見事な表現がなされていて、この著名な画家の作品であることには間違いがない、とされる作品である⁽³⁵⁾。近年の研究によると、この作品は、1616年の年末以前には完成していたとされる⁽³⁶⁾。一方で、このルーベンスのザビエル像は、すでに指摘したヴィーリクスによる版画を原型にしていたことが理解される⁽³⁷⁾。

こうした類型の展開を眺めてみると、神戸市立博物館所蔵のザビエル像(図19)は、Bに整理した、ヴィーリクス以来の祈禱する聖フランシスコ・ザビエルの肖像に分類されるといえるだろう⁽³⁸⁾。

III. フランドルで制作されたヴィーリクス周辺の聖人像とその世界的な影響について

すでの多くの研究書が指摘しているように、ヴィーリクスのいたアントワープで制作されていたフランドルの聖人版画は膨大な数であった。スペイン領アメリカが先ずその最も大きな販路であり、ヨーロッパ大陸そのものでは、フランス、スペイン、イタリアがそれに次ぐ輸出地域であった⁽³⁹⁾。印刷業者や書籍商、そして版画家自身が、版画、カード類などを、制作された本国で頒布するだけでなく、世界各地に大量に輸出していたのである⁽⁴⁰⁾。アルヴァンも指摘しているように、フランドルの版画愛好家や収集家がスペインを訪れた際に、そこで見る多くの宗教画の中にフランドル版画の影響を驚きをもって認めざるを得なかったと記している⁽⁴¹⁾。

他方で、イエズス会士が、常に聖人の版画を携えて布教に尽力したことも知られている。プロテスタントとの抗争に勝利するためには、極めて有効な布教手段であったからである。ヴィーリクス兄弟は、イエズス会に関係した貴族のために、あるいはその指導下で制作に従事していた⁽⁴²⁾。1593年、すでに引用した、ナダルの、*EVANGELICAE HISTORIAE IMAGINES*がヴィーリクスの版画を挿し絵にして刊行されている⁽⁴³⁾。ナダルとイエズス会神学との関係を論じたブーザーが述べているように⁽⁴⁴⁾、第2のイエズス会創設者ともいえるナダルは、ロヨラの教えと実践に従った。ヴィーリクスの版画は、こうした環境ではたいへん愛好されたのである。スペイン美術研究者ソリア⁽⁴⁵⁾以

降、ヴィーリクスの版画のこの国における影響を論じた数件の基礎的研究を指摘できる。こうした状況をふまえて考えると、ハレやヴィーリクスの版画が、西洋の画家だけでなく、わが国の画家にも影響を与えたことは十分に推測できることである。

註

- SCHURHAMMER S.J.(G.), *Franz Xavier, Sein Leben und sein Zeit*, 1955, 2 vol..
- HAMY(R.P.A.), *Essai sur l'iconographie de la Compagnie de Jésus*, Paris, chez Mr. Rapilly, 1875, p.175-185(n.2891-3149).
- SCHURHAMMER S.I.(G.), <Das Bild des hl. Franz Xaver>, *Weltmission der katholischen Kirche*, 1917. なお、この論文は、戦後になって以下の再録論文集のなかで読むことができる。*Gesammelte Studien, Herausgegeben zum 80. Geburtstag des Verfassers*, t.IV, Varia, 1965, no. 105, p.209-211. なお、以下の2件の論文も同じ。SCHURHAMMER S.I.(G.), <Ein Xaveriusleben in Bildern>, *Xaverius-Jubilaeums-Kalender*, 1922, 52-69(同書, t.IV, Varia, 1965, no. 104, p.203-207); SCHURHAMMER S.I.(G.), <Das wahre Bild des hl. Franz Xaver?>, *Die katholischen Missionen*, 1922(同書, 1965, t.I, p. 213-215, no. 106, 図版Tafel V-X).
- 以下の辞典項目にある、参考文献を添えた小論は、極めて重要である。SCHURHAMMER(S.J.G.), 「フランシスコ・ザベリオ」「カトリック大辞典」、1954、富山房、全5巻、第IV巻(III-4)、p.559-560.
- REAU(L.), <François Xavier>, *Iconographie de l'art chrétien*, Presses Universitaires de France, 6 vol., t.III-1, 1958, p.538-540.
- RAGGI(A.M.), <Francesco Saverio>, *Bibliotheca Sanctorum*, Instituto Giovanni XXIII, 12 vol., t.V, 1964, p.1237-1238.
- KURRUS(T.), <Franz Xaver>, *Lexikon der christlichen Ikonographie*, Herder, 8 vol., t.I, 1974, p.324-328.
- COUPRIE(L.D.), <Francis Xavier>, *Iconclass*, 1: Bibliography, 1983, 11H, p.134.
なお、以上三件の資料には、それぞれに詳細な文献案内がある。

9. 先ず、わが国の神戸市立博物館所蔵の〈ザビエル像〉(図21)に関しては、以下に編年で記した研究を挙げる事ができる。

橋川正『北摂より発見したる切支丹遺物』「史林」(1921年、第6巻、1号、121-125頁)；新村出『摂津高槻在東氏所蔵の吉利支丹遺物』「京都帝国大学文学部考古学研究報告(吉利支丹遺物の研究)」(1923年、第7冊、p.7-9)；幸田成友『和蘭夜話』(1931年、同文館、p.268-269)；SCHURHAMMER S. J. (G.), 1954, 既出, p. 559；西村貞『南蛮美術』(1958年、講談社、p. 95-97)；坂本満『南蛮美術と洋風画』(1970年、小学館、全集・原色日本の美術、第25巻、p. 41、色彩図版、73, no. 25)；福永重樹『{聖フランシスコ・ザビエル像}に就いての考察』「キリスチン研究」(1972年、第14輯、p. 257-280)；VLAM(G. A. H.), <The Portrait of St. Francis Xavier in Kobe>, *Zeitschrift für Kunstgeschichte*, 1979, Band 42, Jahrgang 1979, Heft 1, p. 48-60.

10. SCHEELEN (W.), <De herkomst en de datering van Rubens' voorstellingen van de H. Ignatius van Loyola en de H. Franciscus Xaverius>, *Jaarboek van het Koninklijk Museum voor Schone Kunsten Antwerpen*, 1986, p. 153-172.

11. SMITH (G.), <Rubens' Altargemälde des hl. Ignatius von Loyola und des hl. Frans Xavier für die Jesuitenkirche in Antwerpen>, *Jahrbuch der Kunsthistorischen Sammlungen in Wien*, 1969, Band 65, Neue Folge Band XXIX, p. 39-60.

12. KIMURA (S.), <Saint François-Xavier prêchant aux Indiens, quelques aspects iconographiques>, *Georges de La Tour ou la nuit traversée*, 1994, Metz, Serpenoise, p. 133-143；KIMURA (S.), <La source écrite du Miracle de saint François-Xavier de Poussin>, *Revue du Louvre*, 1988, Vol. 38, No. 5-6, Décembre, p. 394-398.

17-18世紀に描かれたザビエルの死に関する画像研究では、この他に以下の論考がある。SATKAI (A.), <Beiträge zu den mitteleuropäischen Darstellungen des Todes des Heiligen Franz Xavier im 17. u. 18. Jahrhundert>, *Acta Historiae Artium*, 1969, Academiae Scientiarum Hungaricae, Tomus XV, p. 293-301；BOURASSA (P.), <La

diffusion d'un thème iconographique dans l'art au Québec: la mort de saint François Xavier>, *The Journal of Canadian Art History*, 1987, Volume X2, p. 120-152；JEDDING (H.), <Johann Joachim Kaendlers "Tod des heiligen Franziskus Xaverius">, *Keramos*, 1988, Heft 119, Januar, p. 85-92.

18世紀におけるこの聖人の礼賛の図像では、SOU-CHAL (F.), <L'Apothéose de saint François Xavier de Guillaume II Coustou>, *Gazette des Beaux-Arts*, 1988, t. CXI, no. 1428-1429, p. 43-48.

ザビエルの生涯については、GUGITZ (G.), <Ein unbekannter Franz-Xaver-Kult in Spittal a. d. Drau>, *Carinthia I*, 1958, 148. Jahrgang, p. 678-80；EPPLE (A.), <Der Bilderzyklus in der Franz-Xaver-Kapelle der Jesuitenkirche in Mindelheim und sein Maler Jakob Potma>, *Jahrbuch des Vereins für Augsburger Bistumsgeschichte e. V.*, 1989, 23. Jahrgang, p. 180-187.

13. シュールハメル師が、1922年に発表した次の論文では、アレッサンドロ・ヴァリアーノは、1583年にゴアでザビエルの肖像を注文している。SCHURHAMMER, 1922(1965, *G. Studien*, 既出, p. 213-214)；SCHAMONI (W.), *Das wahre Gesicht der Heiligen*, 1938, Lipsia. 筆者は、後に英訳された次の文献を参照した。*The Face of the Saints*, 1948, New York, Pantheon, 英訳A. Fremantle, また次の論集に再録、SCHURHAMMER, 1954, 既出, t. IV, p. 559.

作品の所在地については、SCHURHAMMERは1922年の論考で“Römischen Professhaus”と記しているが、現在は不明。一方で、この聖人を描く別の油彩作品を指摘している(1965 Tafel VI)。

14. SCHURHAMMER, 1922；1965, Tafel V. 一方で、ウィッキ(Wicki, 1964, p. 1235, 図版)は、ブリュッセル王立図書館に所蔵されている、17世紀にエッチングで描かれた、たいへんよく似た肖像を指摘している(Incisione del Cod. ms. 7264, f. 47)。
15. CARAYON (A.), *Bibliographie historique de la Compagnie de Jésus*, 1864, 複製版 Genève, Slatkine, 1970, p. 366-368, no. 2691-2712.
16. *Horatti Tursellini e Societate Iesv, de vita Francisci Xaverii... Xaverii Epistolarum... Romae*, A. Zanetti, 1596. たとえば、図書館に取

- 蔵されている多数のザビエル関連版画は、たいへん類似していて、また、先ず単独で制作された後、挿し絵とされたことも十分あり得るので、この作例そのものが1596年制作と断定することはできない。
17. Antoine I (1520/25-1572頃): 以下参照、MAUQUOY-HENDRICKX (M.), *Les Estampes des Wierix, conservés au Cabinet des Estampes de la Bibliothèque royale Albert Ier: Cat. raisonné*, 1978-83, 4 vol., t. III-2 (1983), p. 513; Antoine II (1555/1559-1604) については p. 522; Antoine III (1596-1624) は p. 524.
18. MAUQUOY-HENDRICKX, 1979, 既出, t. II, no. 1148, p. 207, pl. 152.
19. SCHURHAMMER S. J. (G.), 1954, 既出, p. 559. サツフェラートについては、次の文献を参照。MACE DE LEPINAY (F.), <Giovanni-Battista Salvi dit il Sassoferrato>, in cat. Expo. PARIS-MILAN: *Seicento*, Musées Nationaux, 1989, p. 349-351; MACE DE LEPINAY (F.), cat. Expo. *Sassoferrato: Giovan Salvi "Il Sassoferrato"*, 1990, P. ZAMPETTI, p. 106-115. しかし、こうした資料には、シュールハマー師が指摘した作品は指摘されていない。
- 19bis. この版画には右下にモノグラムがある。NB Fと読むことができるが、恐らく、1550年にダルマーチアに生まれ、1590年頃にはローマで制作を行っていた版画家であると思われる (BENEZIT, E., *Dictionnaire critique et documentaire...*, Paris, Gründ, nouvel éd., 1976, t. II, p. 151). 一方で、建築家 Domenico Fontana の *Della trasportazione dell'Obelisco...*, Roma, 1590, に描いた挿し絵が知られている (NAGLER, G. K., *Die Monogramisten*, München, Franz, t. IV, 1858, p. 738-739, no. 2342, 復刻版 Nieuwkoop. B. de Graaf, 1977).
20. KIMURA, 1994, 既出.
21. KIMURA, 1988, 既出.
22. FURETIERE (A.), *Dictionnaire universel...*, 1690, La Haye et Rotterdam, Chez Arnout & Reiner Leers, 3 vol., t. I.
23. FURETIERE, 1690, 同前, t. II, "Estole".
- 23bis. 作者不詳 <聖フランシスコ・ザビエル>
1611年以前 版画 4.9×7.3cm 次の図書館の挿し絵 TORSELINI (Le P. O.), *La vie du bienheureux père François Xavier...* mise en français et maintenant corrigée sur la latine... par le père Michel Coyssard, 1611, Lyon, J. Pillehotte, パリ、フランス国立図書館蔵.
24. JOLY (H.), <Auger (Emond)>, *Dictionnaire de biographie française*, t. IV, 1948, p. 504-511.
25. VAN PUYVELDE (L.) は次の論文で、この作品をルーベンスの作品と認定している。<Les "Saint Ignace" et "Saint François Xavier" de Rubens>, *Gazette des Beaux-Arts*, 1959, avril, p. 233, 図版, Fig. 7; LARSEN (E.), *L'opera completa di Van Dyck 1613-1626*, Milano, Pizzoli, 1980, 2 vol., no. 395, p. 112, 図版、また no. 394 も参照のこと; ルーベンスと版画家ハレとヴィーリクスとの関係は、KNIPPING (J. B.), *Iconography of the Counter Reformation in the Netherlands*, Nieuwkoop, B. de Graaf; Leiden, A. W. Sijthoff, 2 vols., 1974 (1939-42), t. I, p. 144.
26. ローマ、ヴァチカン宮美術館、画布・油彩、342×215.5cm、制作年、1622から1623頃の間。LARSEN, 1980, 既出, no. 94, p. 113, 図版。
一方で、ヴァン・ダイクが、やはりこの聖人を1622-1623年頃に描いたとされるもう一点の作品がある。画布・油彩、127×91.5cm、ポメルスフェルデン(ドイツ)、グラフ・フォン・ショーンボルンシュ・コレクション, LARSEN, 1980, 前掲書, no. 396, p. 112, 113, 図版、を参照のこと。
27. 『スピリツアル修業(修徳行善)...』 ROSAIRONO NIBANNO GLORIAN *Mysteriosa von arujino... ten nari*, 1607 長崎耶穌會學林刊(長崎大浦天主堂蔵)(未確認); 西村, 1945, p. 128, からの引用。この一五原義は、1607年に長崎で刊行された「珠冠のマニュアル」に書かれている。
詳しくは以下の文献を参照のこと。藤波大超『新に発見されたるマリア一五玄義図に就いて』、『歴史と地理』、1931、27巻、5号、p. 70-74 (588-592); 濱田青陵『原田本マリア一五玄義図』、『寶雲』、1935、p. 13-24; 西村, 1945; 西村, 1958; 坂本, 1970, no. 26, 27, p. 73, 図版。
28. もう一点の、作者不詳 <ロザリオのマリア(マリア一五玄義図)>、(東家本)にもザビエルが同じ仕草をしていることを確認できる。詳しくは、橋川, 1921, p. 123; 新村, 1923, p. 9-14, 図版、3-5; 西村, 1945; 西村, 1958, 81図(部分); 坂本, 1970, 図版 no. 26, 27, p. 73,
- 28bis. 祈禱の身振り一般については、GARNIER (F.), *Le langage de l'image au moyen-âge, significa-*

tion et symbolique, 2 vol.; t. I 1982, t. II, 1989, Paris, Le Léopold d'or, t. I, p.184-187; SCHMITT(J.-C.), *La raison des gestes dans l'Occident médiéval*, 1990, Paris, Gallimard, p. 289-320, シュミット(ジャン=クロード)「中世の身ぶり」, 1996, 東京、みすず書房、邦訳・松村剛、p.295-328, を参照。ただし、本稿で論じているザビエルのこの身振りのイエズス会における意味については、同会ローマ古文書館W. Gramatowski氏の見解に基づく。

29. ALVIN(L.), *Catalogue raisonné de l'oeuvre des trois frères Jean, Jérôme & Antoine Wierix*, 1866, Bruxelles, T.-J.-I. Arnauld, no.1905, p. 394.
30. 現在、フランス国立図書館、並びに、フォンテーヌ図書館に所蔵される以下の図書 TORSELLINI(Le P.O.), *De vita Francisci Xaverii...*, 1597, Leodii, ex officina H. Hoviiには、正面を向いた肖像を確認できる。右向きで、左手が上になり、右上から光線が入る。上下にメダイオン。寸法は、8.1×5.8cm。
一方で、やはり、フランス国立図書館蔵の次のラテン語版図書にも、類似した肖像を確認できる。寸法(8×5.9cm); 記銘(Iac: de Zettre fecit). TORSELLINO(Le P.O.), *De Vita B. Francisci Xaverii*, 1607, Lugduni, sumptibus P. Rigaud.
31. ALVIN, 1866, 既出, p.394, no. 1907. この作品にグランは、1596年の制作年を与えているが、根拠は不明である。
32. この版画は、対画としてロヨラ像がある。68×44mm、ブリュッセル王立図書館、MAUQUOY-HENDRICKX, t.II, 1979, 図版, pl.139, no.1010, p.186.
33. Lord Hertford, Ragley Hall, sale, London (Christie's), 20 May 1938, lot 28(St. Ignace); Asscher and Welker, Londonが購入; 1940年の火災のために破壊。以下の文献を参照。MENSART(G.P.), *Le peintre amateur et curieux*, Bruxelles, P. De Bast, 1763, 2 vol., t.I, p.41-42; DESCAMPS(J.B.), *Voyage pittoresque de la Flandre et du Brabant*, Paris, Desaint, etc., 1769, p.186-187; VAN PUYVELDE, 1959, 既出, p.225-236; Vlieghe(H.), *Corpus Rubenianum*, London, Phaidon, t.VIII-II, 1973, no.114, p.71; Rome:Expo. *Rubens e*

l'incisione nelle collezioni del Gabinetto Nazionale delle Stampe, De Luca, Rome, Villa della Farnesina, 8/2-30/4, 1977, no.70.

34. 画布・油彩、224×138cm, ウォリック伯コレクション, Vlieghe, 1973, 既出, t.VIII-II, no.113, p.68-71, 図版, Fig.36参照。
35. MENSART, 1763, 既出, p.42.
36. SCHEELEN, 1986, 既出, p.159. 制作年代と画家の認定については、以下の文献を参照。VAN PUYVELDE, 1959, 既出, p.227; Vlieghe, 1973, 既出。
37. Vlieghe, 1973, 既出。ロヨラ像にも同じことが指摘できる。
38. この2つの類型以外のザビエルも無論存在している。それらは、カタログのなかのその他として位置づけてある。
39. ALVIN, 1866, 既出, p.XXIII; この文献以外では、DELEN(A.J.J.), *Histoire de la gravure dans les anciens Pays-Bas et dans les provinces belges des origines jusqu'à la fin du XVIIIe siècle*, Paris, Les éditions d'art et d'histoire, 3 vol. 1924-35, t.II(2): 1935, p.149(複製版, 1969, De Nobele); DE NAVE(F.), <A Printing Capital in its Ascendancy, Flowering, and Decline>, in. cat. expo.: *Antwerp, Story of a Metropolis, 16th-17th Century*, Gent, Snoeck-Ducaju & Zoon, p.87-95.
40. DELEN, 1935, 既出。
41. ALVIN, 1866, 既出, p.XXIII.
42. 同前。
43. NADAL(Le P.G.), *Evangelicae historiae imagines*, Antwerp, 1593. 1607年刊行の版(I. Moretum, Antwerp)の複製版は、以下のものを参照。*Imágenes de la historia evangélica*, 1975, Barcelona, El Albir, Coll. Biblioteca Iconográfica Serie flamenca, no.1; MAUQUOY-HENDRICKX, 1982, 既出, t.III-1, no. 19890-2141, p.400-429.
44. BUSER(T.), <Jerome Nadal and Early Jesuit Art in Rom>, *The Art Bulletin*, 1976, Volume LVIII, Number 3, p.424-433.
45. SORIA(M.S.), <Some Flemish Sources of Baroque Painting in Spain>, *The Art Bulletin*, 1948, Volume XXX, Number 4, p.249-259.
また、近年この問題に関しての以下の論考を刊行

されている。GONZÁLES DE ZÁRATE(J.M.),
 <Grabados de Juan Wierix y la pintura flamenca del siglo XVII en el Museo del Prado>,
Archivo español de arte, 1989, Tomo LXII, no. 247, p.354-359.; PEREZ GUILLEN(I.V.),
 <Nuevas fuentes de la pintura de Zurbarán. La estampa didáctica jesuítica>,
Goya, 1989, Numero 213, p.151-60.; MOFFITT(J.F.),
 <Francisco Pacheco and Jerome Nadal: New Light on the Flemish Sources of the Spanish "Picture-within-the-Picture">,
The Art Bulletin, 1990, Volume LXXII, Number 4, p.631-638.
 わが国へのフランドル銅版画の伝来は、菅野陽「日本銅版画の研究・近世」美術出版社、1974年、第1部、IIに詳しい。

なお、本研究は、平成6-8年度科学研究費一般研究C「写真資料に基づく西洋近世絵画における図像学的研究」の成果である。

1.

<聖

3. ニコラ

<聖フラ

んだ娘

1641年

パリ、

図版



1. ピーター・パウル・ルーベンス
〈聖フランシスコ・ザビエルの奇跡〉
1617-1618年頃、画布・油彩、535×395cm、
ウィーン美術史美術館、No.311.



2. ジャン・ル・クレール
〈インド人に布教する聖フランシスコ・ザビエル〉
1622年より若干後、画布・油彩、246×171m、
ナンシー、ロレーヌ歴史博物館

作品目録

A. 燃える熱情を示す聖フランシスコ・ザビエルの肖像



3. ニコラ・プッサン
〈聖フランシスコ・ザビエルの奇跡（日本の鹿児島で死
んだ娘を蘇らす聖フランシスコ・ザビエル）〉
1641年、画布・油彩、444×234cm、
パリ、ルーヴル美術館、Inv.7289.



4. 作者不詳〈聖フランシスコ・ザビエル〉
油彩、17世紀
文献：SCHURHAMMER, (1922)1965, *G. Studien*,
p.213-215, 図版 Tafel VII; SCHURHAMMER,
1954, p.559(部分); VLAM, 1979, p.55, 図版 no.
8.



5. マヌアル・ゴンディンホ・デ・エレイデ<聖フランシスコ・ザビエル>
素描 1613
文献：SCHURHAMMER, (1922)1965, p.213-214,
図版 Tafel V;SCHURHAMMER, 1954, t.IV,
p.559;VLAM, 1979, p.52, 図版 no.6(c.1613).



6. テオドール・ハレ<聖フランシスコ・ザビエル>
1596年以前
文献：幸田、1941、図版；SCHURHAMMER, 1954, t.
IV, p.559;福永、1972、図版；VLAM, 1979, p.
54, 図版 fig.7.



7. アントワーン・ヴィーリクス<聖フランシスコ・ザビエル>
1624年以前
シャンティ、フォンテーヌ図書館
文献：ALVIN, 1866, no.933(11.2×6.9cm);MAU-
QUOY-HENDRICKX, t.II(1979), 図版 no.
1148, p.207.



8. 作者不詳<聖フランシスコ・ザビエル>
1600年以前
次の図書の挿し絵 DE LUCENA (I.), *Historia da
vida do Padre Francisco de Xavier*, Lisboa,
1600(東京、上智大学蔵、244-144 Microfilm),



9. 作者不詳<聖フランシスコ・ザビエル>
1606年以前
次の図書の挿し絵 TORSELLINI(O.), *Vita del B. Francesco Saverio*, 1606, Milan, Bordone & Lacarni, SERUGLIENI(L.)による伊訳.
文献: 木村三郎「美術史と美術理論」放送大学教育振興会、1992, p.27, 167, 図版 XI-I (改訂版、1996).



10. 伝サツソフェラート(1609-1685)<聖フランシスコ・ザビエル>
文献: SCHURHAMMER, 1954, p.555, 図版.



11. ナターレ・ボニファッツィオ<聖フランシスコ・ザビエル>
1608年以前
版画
8×13.2cm
モノグラム NB, F.
次の図書の挿し絵 TVRSELINO(O.), *La vie du bien-heureux Pere Francois Xavier*, 1608, Davay, Baltazar Bellere au Compas d'or, P. Martin Christopheによる仏訳.
文献: 木村、1988, 図版 no.5; 木村、1994, p.137.



12. アントン・ヴァン・ダイク<聖フランシスコ・ザビエル>
1622-1623年
画布・油彩
343×215.5cm
ローマ、ヴァチカン宮美術館
文献: VAN PUYVELDE, 1959, p.233, 図版 Fig.7;
LARSEN, 1980, 図版 no.395.



13. 作者不詳<聖フランシスコ・ザビエル><ロザリオのマリア(マリア一五玄義図)の部分>(原田家本)
紙本着色
75×63cm
京都大学蔵
文献：藤波、1931；濱田、1935；西村、1945；西村、1958，
p.96；坂本、1970，図版 no.26, 27, p.73.



15. ヒエロニムス・ヴィーリクス<聖フランシスコ・ザビエル>
ブリュッセル、王立図書館
文献：ALVIN, 1866, no.1906 p.394; MAUQUOY-HENDRICKX, 1982, t.III-1, no.1809-II,
p.362.

B. 祈禱する聖フランシスコ・ザビエルの肖像



14. ヒエロニムス・ヴィーリクス<聖フランシスコ・ザビエル>
1596以前
8×6cm (肖像：4.2×5.1cm)
次の図書の挿し絵 TORSELLINI(Le P.O.), *De vita Francisci Xaveri...*, Antverpiae, 1596 (パリ、フランス国立図書館蔵)
文献：ALVIN, 1866, no.1905-2', p.394; MAUQUOY-HENDRICKX, 1982, t.III-1, no.1809-I, 図版 p.362-363.



16. ヒエロニムス・ヴィーリクス<聖フランシスコ・ザビエル>
ブリュッセル、王立図書館(S.IV, 21993)
11×7.3cm
文献：ALVIN, 1866, no.1907, p.394; SCHURHAMMER, 1954, p.559, 図版 no.3; 福永、1972, 図版 p.260-261(1619?); VLAM, 1979, p.56, 図版 no.9, (1596); MAUQUOY-HENDRICKX, 1982, t.III-1, no.1810-I, 図版, p.363.



17. アントワーン・ヴィーリクス<聖フランシスコ・ザビエル>
ブリュッセル、王立図書館
69×44mm
文献：ALVIN, 1886, no.784, p.142; MAUQUOY-
HENDRICKX, t.II, 1979, 図版 no.1011, p.186.



18. ピーター・パウル・ルーベンス<聖フランシスコ・ザビエル> (破壊された作品)
216×135cm
かつて London, Asscher and Welker 所蔵
文献：MENSART, 1763, t.I, p.41-42; DES-
CAMPS, 1769, p.186-187; VAN PUYVELDE,
1959, p.229; Vlieghe, 1973, II, no.114, 図版
fig.37; ROME, in cat. expo. 1977, no.70, p.48;
SCHEELEN, 1986, p.155, 図版 fig.2.

C. その他



19. 作者不詳<聖フランシスコ・ザビエル>
神戸市立博物館
紙本、泥絵具を用いて着色
61×48.7cm
文献：註9を参照。



20. マヌアル・エンリケ、S.J. <聖フランシスコ・ザビエル>
1622-54年
画布・油彩
76×52.5cm
コインブラ、セ・ノヴァ
文献：M.H.M.P., 展覧会カタログ：東京、静岡、他「ポ
ルトガルと南蛮文化展」、セゾン美術館、他、1993,
p.188, 色彩図版. no.160,